図画工作部会

県研究主題
豊かに感じ取る力を育てることを重視し、児童一人ひとりの資質や能力の育成を図る学習指導と評価の工夫・改善

提案１　　提案者　土屋　智美（県西地区）

＜研究主題＞
自分らしく表現する子どもを育てる図画工作科の授業 ―　「感じる」「考える」造形活動を通して　―

１　提案内容

（１）　テーマ設定の理由

図工に苦手意識があり、表現したいものが決められない、失敗を恐れて伸び伸びと表現できないという児童が数名いた。そこで、図工の授業を「立派な作品をつくる」ことを目標にするのではなく、児童一人ひとりがやりたいことを見つけ、試行錯誤しながら、失敗を恐れずに取り組むことができ、楽しくて夢中になってしまうような授業にしたいと考えた。

小学校学習指導要領では、主な改訂の要点として、教科の目標に「感性を働かせながら」を加え、「感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう」ことを示している。

児童の姿、学習指導要領の要点を踏まえ、本研究では、「感じる図工」「考える図工」を大切にし、自分の力で造形活動を楽しむ児童、つまり「自分らしく表現する児童」の姿を求めて研究を進めていくことにした。

（２）　研究仮説

①　児童の思いや願いを生かした指導計画を工夫することで、自分らしく表現できる場面が増えるのではないか。

②　「感じる」「考える」ことを大切にした授業づくりを工夫し、展開することで、自分らしく表現する児童を育てることができるのではないか。

（３）　テーマに迫るための手立て

①　児童の思いや願いを生かした指導計画の工夫

アンケートを実施し、「図工の学習でしてみたいこと」で一番多かった答えが「段ボールを使った工作」で、他に「自然のものを使って活動したい」などがあがった。この結果を踏まえ、①「自然環境を生かす」②「友達とのかかわり」③「遊びの要素を取り入れる」の３つのキーワードをもとに、指導計画を見直した。

②　「感じる」「考える」授業づくり

○材料や場所の工夫　　○「ためす」－「かかわる」－「つくりだす」

○自分の思いを伝え合う、言語活動の充実　　○活動した「こと」の思い出づくり

《授業の実際》

Ⅰ題材名　「ひもひもワールド」Ａ表現（１）造形遊び

題材の目標　体全体を使って広い空間をひもなどで形つくることを通して、場所の様子を変える活動を楽しむ。

Ⅱ題材名　「木はだを感じて」Ａ表現（２）絵に表す

題材の目標　木肌に触れた感覚をもとに、自分の大好きな木の特徴を感じて、紙粘土や絵の具で表す。

Ⅲ題材名　「だんボール大へんしん！」Ａ表現（１）造形遊び

題材の目標　段ボールを組み合わせたり、切ってつないだりして、場所と材料の組み合わせから生まれる雰囲気を楽しみながら、造形的な活動に取り組む。

（４）　成果（○）と課題（☆）

○　自分に自信が持てず、「○○していいですか」「これでいいですか」と確認することの多かった児童が、自分の考えで活動を進め楽しむようになった。

○　場所から活動を思い付くことができた。また、場所は友達と共有するものであり、友達との関わりが生まれ、協働的な活動へとつながっていった。

○　「ためす」時間に「いいこと（アイデア）」を思いつくようになった。

○　鑑賞の時間を充実させたことで、褒め上手が増え、作品に愛着をもてるようになった。

☆　児童の活動を予想し、必要な道具や材料を事前に準備しておいて、必要なときに出してあげられるようにするとよかった。

２　協議内容

・　「児童の思い」と「教師が何をさせたいか」のバランスをとることは難しいが、教師の思いをどのように組み込んだのか。

→段ボールという児童の思いをメインの材料に、学校の環境や自然を生かそうと思った。また、「木はだを感じて」がうまくつながると思い、指導計画を工夫した。

・　「だんボール大へんしん！」という題材名と「ニュータウン」では学びのゴールがそれぞれ異なるが、ニュータウンという言葉がどのようにでてきたのか。

→２つの言葉にずれがあったかも知れない。最初に町という話はなく、段ボールを使って作りたい物を作ろうと伝えた。「ニュータウン」という言葉はアンケートで作品をつなげて町を作りたいという児童の考えから他学年を呼ぶときに担任がつけた。

・　図工の時数が少ない中で、「ためす」の１時間で児童がどれだけ活動できていたか。

→「ためす」と「つくる」時間をはっきりと分けていない。ためす時間は大事だと伝えてあり、思いついてすぐに作る児童やいろいろとためす児童など、一人ひとり違う。

・　前もって用意したかった材料・用具とは何か。

→段ボールを立たせる針金、色を塗るためにマジックなど。

・　学習活動の見取りはどうしたか。

→ノートを持ち歩き、児童と会話をしたり、よい考えを発見したりしたときにメモをとった。また、写真やワークシートも活用した。

３　まとめ

（１）　児童の思いや願いを生かした指導計画の工夫について

児童にとって必然性のある題材の工夫や、児童の活動が認められる指導によって、表現を自由に発揮させ、主体的な表現につなげることができた。

（２）　「感じる」「考える」授業づくりについて

造形遊びは、目的をもって何かを作る活動ではなく、活動そのものに価値がある。何度も繰り返すことで、できなかったことができるようになり、あきらめない、リカバーするという生き方につながる力がついた。また、友達と認め合ったり、協力し合ったりすることが、お互いの活動に影響し、新たな表現につながった。

提案２　　提案者　黒澤　正道（横須賀地区）

＜研究主題＞
「連続する形・変化する色」
―　消しゴムはんこを使った版表現の可能性を探る　―

１　提案内容

（１）　児童の実態と題材設定について

ノート指導や提出物のチェックの際に、児童へスタンプを押してあげると、とても喜んでくれる。児童がこれまで経験してきた「版表現」と小学校卒業後、中学で取り組まれる造形活動をつなげるものとして「消しゴムはんこ」を用いた表現活動を考えた。取り組みやすく、様々な色への対応もしやすい「消しゴムはんこ」を使った表現活動を設定することで、児童の造形活動の可能性を広げていきたいと思い「連続する形・変化する色」という題材を設定した。

（２）　題材について

①　「オリジナルマーク」をつくろう（３時間）：題材も自分の好きなものや今の思い、自分の名前に使われている文字などをもとに、自分を表す「オリジナルマーク」を考え、既習事項を生かしながら、自分の思いをもって工夫して表す。

②　「アートカードNo.18」を鑑賞しよう（１時間）：抽象的な表現のアートカードにある形と色がもたらす効果や、印象があることを味わいながら、身近にある「連続する形」で表現されているものを探す。

③　連続する形、変化する色（６時間）：スタンプによる表現方法を経験し、自分のイメージする世界を表すために、自分なりの形と色を考え、それらを組み合わせながら、構成の美しさなどを感じる中で、表し方を構想して表す。

（３）　実践から得られたこと　成果と課題

①　「連続する形・変化する色」の題材に入る前に“「オリジナルマーク」をつくろう”で、自分の好きなことや、自分の名前等、自分の好きなモチーフなどを取り入れたデザインにすることができるため、はんこづくりに対する満足感を与えることができた。

②　「オリジナルマーク」の説明会から、どのようにはんこを押すかを考えている姿が見られた。（どのような配置にスタンプを押していくか構成をデザインしていた）

③　画用紙を使用すると、めくれてしまうので適さないことがわかった。（その後版画紙を使った）

④　試しの活動では、友だちと交流しながらスタンプを紙に押す。自分の意図と反し、変化していく。個人の活動でも、徐々に作品の印象は変化していく。変化し、偶然できた色やはんこの重なりに美しさを感じることが、今後の表現の広がりにつながると感じた。

⑤　「自分の気持ちを形に表す」という活動は発展させることが難しかったため、「オノマトペ」の絵本を読み聞かせ、「新しい形」「新しい線」を考えさせた。

⑥　「新しい形」「新しい線」を考えるためのモデルとして、ワークシートを工夫した。

⑦　自分なりの形を追求するためにアイディアスケッチ用のワークシートを工夫した。

⑧　はんこを押していく中で感じる「失敗」（にじみ・偶然性）は「失敗」ではなく、はんこならではの「特徴」や「個性」だと児童に伝えると、肯定的に捉えられるようになった。

⑨　自分の好きな色ではなく、“作品に合った”台紙選びをさせることで、中学校美術での色彩の学習につながった。

⑩　鑑賞の時間に「作品名」「作品の紹介」などのキャプションを公開させず、先入観をもたせない方法をとった。作者が思ってもみなかった感想をもらうことができ、作品に対して新たな世界を発見することとなった。

⑪　作品から分析・分類できること

ア　「試しの活動」で行ったはんこの押し方が個々の表現の中で発揮されていた。

イ　児童の作品は大きく３つに分類することができる。

・　自分の思いや自分の世界を表現しようと取り組まれた作品

・　スタンプを押す過程で、イメージが膨らみ、自分の世界がつくられていった作品
・意図的にスタンプしていき具体的な形を表現した作品

ウ　児童の作品から「構成美の要素」につながる表現が見られた。

エ　自分の表したい世界をより具体的に表現するための試行錯誤が見られた。

２　協議内容

・　形、色、構成などの新しい要素をたくさん学ぶことのできる教材だった。今回の授業で目指していたところを教えてほしい。

→　授業の展開の中で、児童に少しずつこの学習で最終的に目指す作品の方向性について提示していった。「自分のことを見つめて表現する」ことが目指していた理想だったが、その場の偶然性の中から構成を考えて表現する児童、規則的な表現や絵画的な表現をする児童もいた。児童それぞれの表現が出てきたので、そこが面白かった。

・　消しゴムはんこは、「自分の気持ち」をデザインすることを目指していたのか。

→　本当は「自分の気持ち」をデザインすることを、より児童に追求させたかった。だが、児童に躓きが見られたのでオノマトペや形容詞を紹介し、デザインのヒントを提示しながら授業を進めていった。上手く表現できた児童もいたが、絵に対して苦手意識をもつ児童に「自分の気持ち」を表現するように要求することは難しく感じた。完成作品に「作品名」「作品の紹介」などのキャプションを書かせる授業の前段階で、「自分の世界を語る」という活動を意識的に積み重ねておく必要があったと反省している。

・　様々な個性をもつ６年生の児童が自分自身を見つめ、気持ちを表現する難しさがあったと思う。伸び伸びと個性を表現できる環境・関係づくり、色・形・構成を考える高度な要求に応える児童の豊かさが素晴らしいと感じた。児童の意外性が見られる作品があれば教えてほしい。

→　おとなしい児童がパーティーを連想させるような作品作りをしていた。また、普段は絵が全く描けない児童がきれいな色遣いで作品を残せていたので、自信につながっているのではないかと思う。自分を表現できず、あまりやる気が見られない児童も明るい表現ができていた。

・　消しゴムという身近な素材を使って、児童一人ひとりの個性を引き出す素晴らしい提案だった。今後児童に共同作品作りをさせる構想はあるのか。

→　共同作業をさせたら楽しそうだという思いはあったが授業時数的に厳しいので、隙間の時間に取り組んでみたい。思いもよらない作品ができそうなので興味がある。

・　丁寧なワークシートだった。ただ、枚数が多いので児童のやる気を削がなかったのか、実態を知りたい。もしもワークシートがなかった場合の展開案があれば教えてほしい。

→　ワークシートに自分の考えを残すことで見取りをする必要があった。これまでの授業の積み重ねで児童も諦めていると思うが、もしかすると「早く作りたい」と思っていたのかもしれない。ただ、発想できない児童は他の児童のワークシートがヒントになっていた。指導のきっかけにもなったのでワークシートが有効だったと思う。

３　まとめ

（１）　図画工作の魅力は、題材を自主開発できることである。今後も魅力的な題材を開発していくことが大切である。

（２）　提案の授業は題材のパッケージ化がなされていて、意図的・計画的で綿密に作られていた。ただ、あまりに丁寧すぎても表現の広がりや深まりが制限されていく。教員の願いと児童の思いのバランスをとりながら児童の資質や能力が深まる題材作りをすることが大切である。

（３）　児童がこの題材の活動をどのように消化し、次の活動につなげたのか。活動を重ねる中で最終的に一人ひとりの学びがどこまで深まっていったのか、それを見とることが大事である。